

このボードは北海道のような厳しい気候・風土に耐える外装用材料として優れた性能を有し、これからの外壁材として大いに期待されています。しかも、その用途は外壁に限らず、板面のモザイク模様の美しさから内装あるいは床の仕上げ材にも使えます。ここでは厳しい気候条件から建物を守るために使われる外装材としての施工について注意すべきポイントを述べます。

施工に際しては図1の工程に従って行いますが、施工手順の留意点を次に示します。使用する

ボードは図2に示したようなボードで、図3のように仕上げます。

施工手順と留意点

積雪深度を考慮した基礎高さを確保します。一般には1m以上あることが望ましいでしょう(図4)。

柱および間柱は外側面が面一となるように取り付けて、間柱間隔は455mm以下とします。

壁内部の電気配線、配管、サッシ等の取り付けを行います。窓回り、庇回りには四方に胴縁

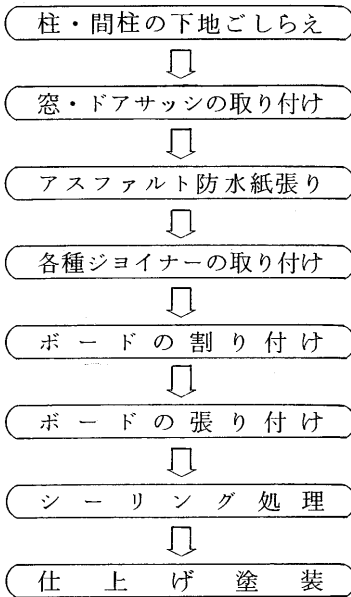


図1 外装材の施工工程

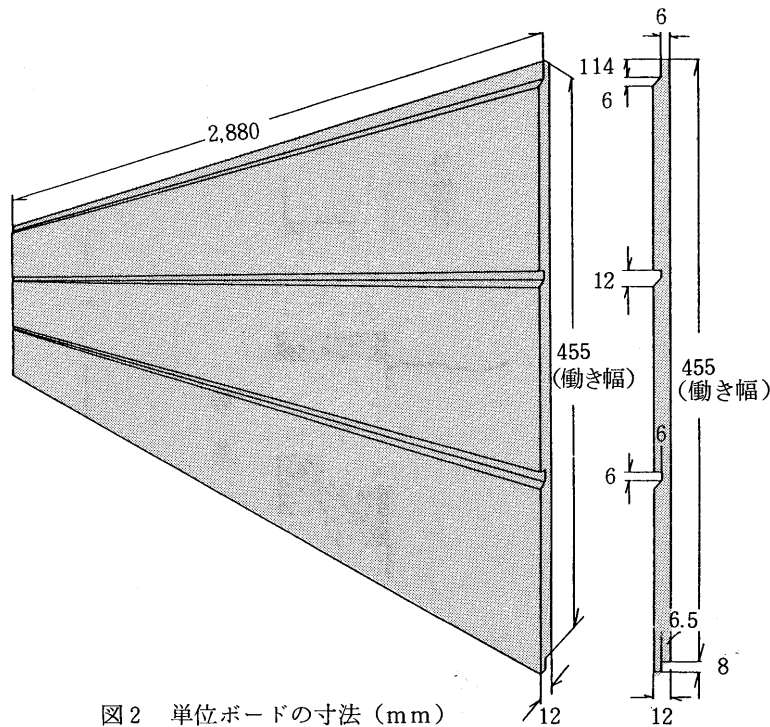


図2 単位ボードの寸法 (mm)

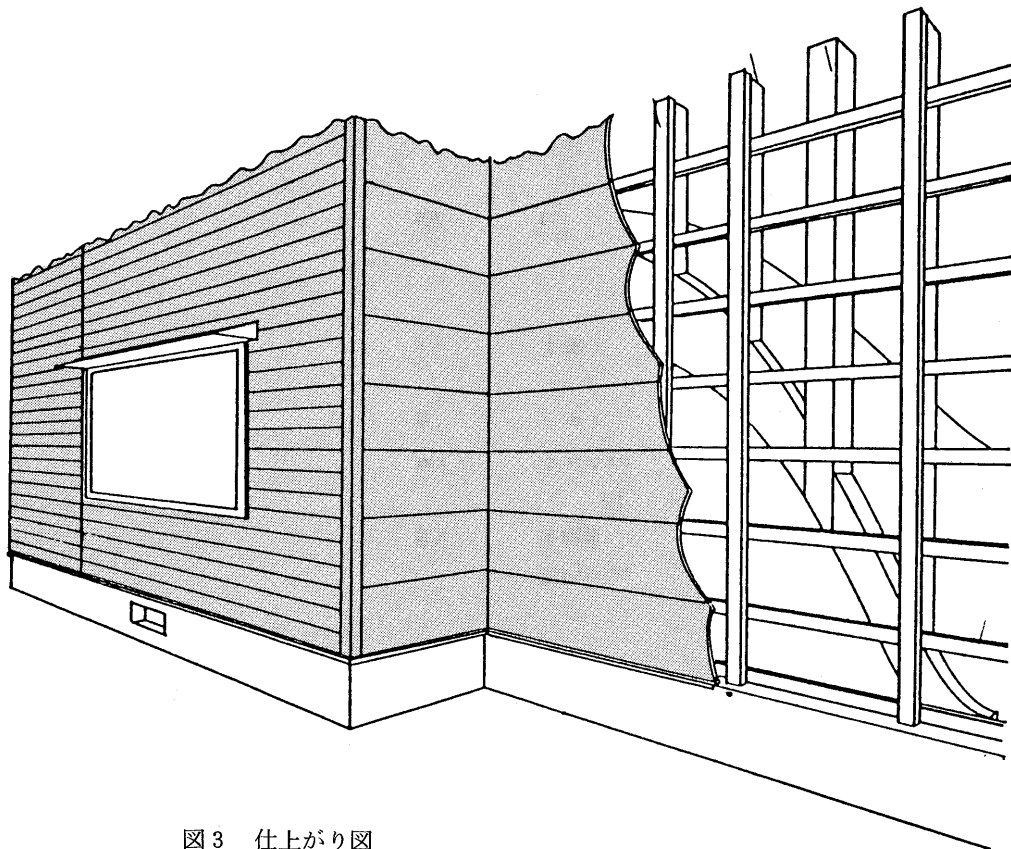


図3 仕上がり図

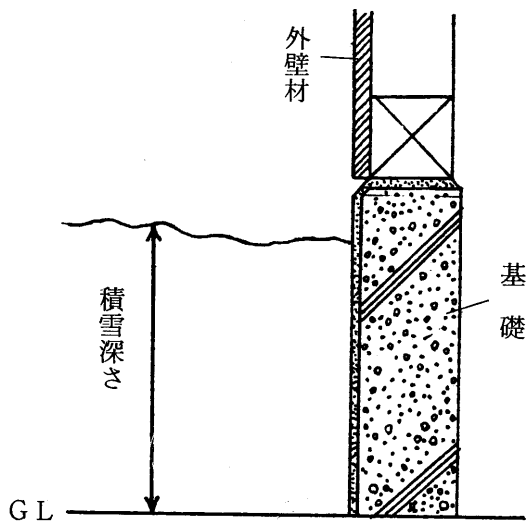


図4 基礎はできるだけ高く

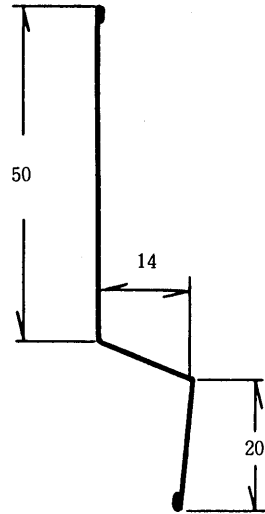


図5 水切ジョイナー

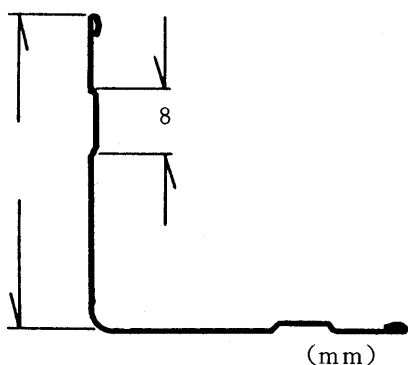


図6 出隅ジョイナー

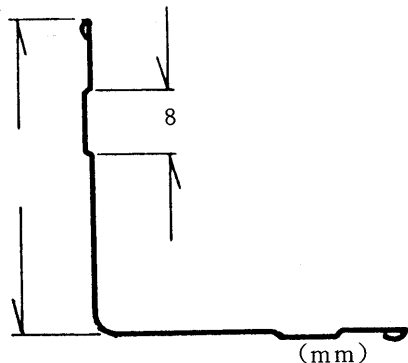


図7 入隅ジョイナー

を回り補強します。

防水紙にはアスファルトフェルト17kg品以上の製品を使用し、ステープルを使って壁面全体に張り付けます。

土台に水切ジョイナー(図5)、出隅、入隅部に各ジョイナー(図6、7)を取り付けます。

胴縁を柱、間柱に取り付け、再度凹凸のないことを確認します。

ハット型ジョイナー(図8)を目地部分に土台レベルと垂直になるように取り付けます。

カラマツ・セメントボードは土台に取り付けた水切ジョイナーより10mm程度離して下から順に留め付けます。なお、ボードの切断にはフード付きチップソーを使用します。

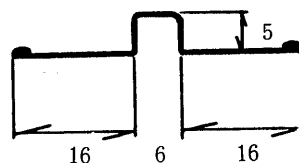


図8 ハット型ジョイナー



長さ 38 mm 径 2.3 mm

図9 ステンレススクリュー釘 (SUS304)

留め付けには図9のようなステンレススクリュー釘を使用し、胴縁ごとにボードの端部より20~25mm内側の位置で3本以上使って打ち付けます。

シーリングは壁内部への雨水等の浸入を防ぐもので、縦ジョイント部、出隅、入隅、サッシ回り、その他の開口部に施します。シーリング材には一般にウレタン系のものが使用され、変性シリコン系のものの使用もみられます。シーリング材の接着をよくするために木口にはプライマーを塗布し、その後にシーリング材の充填を行います。

仕上げ塗装はボード表面の汚れ、付着物を除去した後、アクリル系あるいはウレタン系の外装用塗料を使用します。塗料はメーカーにより特性が異なりますが、アルカリに強く、密着性の優れた塗料を選ぶことが必要です。

以上極めて簡単に施工上の留意点を示しましたが、各工程を通じ、ボードの持ち運びや移動の際には四隅や端面の損傷を防ぐ注意が必要です。保管の際には風通しの良い室内にパレット積み又は飼木をして水平に積み重ねておきます。

(林産試験場 加工科)